

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

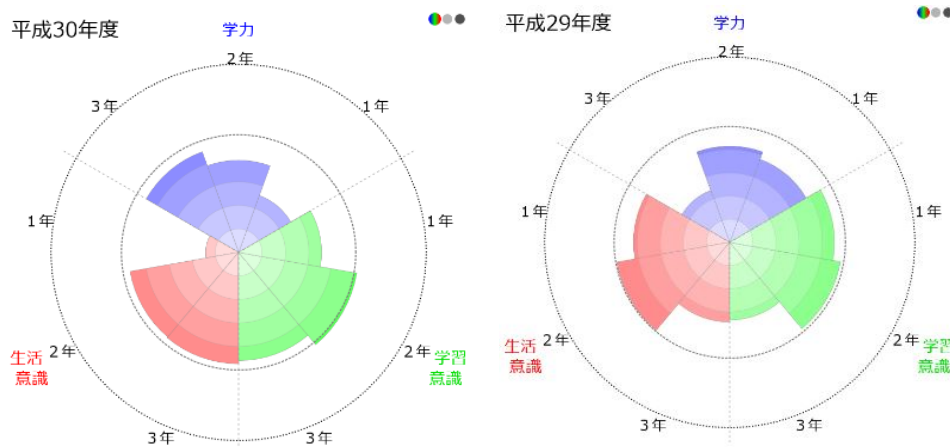
学校経営中期取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が持ち味を生かし、主体的に学校経営に参画することで、チーム力を生かした活力のある学校づくりを目指します。 ○子どもの学力を正確に把握し、実態に応じた学習計画を立て、学力向上に繋げられるような実践を行います。 ○外部人材資源を導入し、個に応じた学習支援や特別支援を推進します。 ○子どもが抱える心の課題に向き合い、小中学校が連携した児童生徒指導体制や特別支援教育を推進します。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本学力の向上と自ら判断し、豊かに表現する能力を育成する。 ・授業展開を工夫するなど、教員の授業力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を引き出す授業と評価の工夫を図る。 ・基本的な学習態度の定着に努め、主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。 ・自らの課題に向き合い、解決が図れるような思考力や判断力を養う。
担当	学習指導部	

2 横浜市学力・学習状況調査より

(1) 学力の概要と要因の分析



31年度2年、3年生の学力は、全校的には市平均を下回っているものの、その差は縮まりつつある。また学力、意識とも高まってきている。今後の学力向上に向けては、基礎・基本を定着させ発展的な学習への積極的な取り組みを充実させるとともに、小学校との連携も深め、9年間を見通した指導を徹底したい。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：文章全体を読み取り、構成や要旨を捉え、文章にまとめる力は身につけてきた。特に言語能力は高まってきている。3年はよい方向に進んでいるので1、2年生でも基礎学習を進めていきたい。
- 社会科：社会科への意欲も高まり始め、基礎学力は徐々に定着してきた。応用力の習得が課題。
- 数学科：個々の学力に差がある。また、基礎学力の定着に課題がある。
- 理科：観察・実験に対する興味はあるが、基礎学力の定着と学習への意欲に課題がある。
- 外国語科：外国人とのコミュニケーションを図りたい生徒は市の平均より低いので、基本的な表現力を身につけることに課題がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

学力層で見るとCD層の生徒が市平均よりも多くなっており、とくに数学、理科、外国語では8割近くに達している。どの教科も勉強を大切とは感じているものの、勉強時間が1時間未満の生徒が半数以上おり、基本的な内容が十分に定着していないことがうかがえる。各教科に対する関心は低くはないので、教材教具の工夫や指導法の改善、また家庭学習の習慣化を進めることにより、学力を向上させることが必要である。

3 令和元年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 漢字等基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させるとともに、自らの学習状況を把握し、問題解決できるような活動を設定する。
- 生徒の学習意欲を高めるために、実生活に結び付いた言語活動の設定やワークシートを活用していく。

社会

- 誰にでもわかりやすく、取り組みやすい授業を目指して、視聴覚教材や資料集などを活用しながら授業をすすめる。
- 小テストやノート&ファイル提出を定期的に行い生徒の理解度をチェックし、授業の改善につとめる。

数学

- 演習問題や確認テストを数多く行うことで、基礎学力の定着、向上を図る。
- アクティブラーニングやグループ学習をとり入れ、子どもの能力にそった形で工夫した授業展開を行う。

理科

- 思考力・表現力を育てるために、予想や考察を話させる場面を積極的に設け、考える活動をしっかり行う。
- プリントを効果的に活用し、重要な事柄が何かを視覚的にわかるようにする。

音楽

- 発声練習やリコーダー音階練習を毎回行い、基礎、基本の定着を図る。
- 自己評価カードや実技評価カード等を活用して、個々の課題を明確にし、課題解決のための支援を行う。

美術

- 発想や構想の能力を育てるために鑑賞の時間を工夫し発想や構想の能力を育てる。
- 生徒一人ひとりが意欲的に表現主題を追及できる魅力的な題材の提供を図る。

技術・家庭

- 生活の自立に必要な力や基本的な知識を身につけ、実践できるように、日常生活の出来事を中心に題材を設定する。
- パソコンや実物投影機等を活用し、生徒の理解を深められるようにする。

外国語

- UNIT 全体で子供に身に付けさせる力を明確にして単元計画、評価計画を立てる。
- AETとの会話する場面や生徒同士の会話をすすめる場面を設定し、コミュニケーション向上のための活動を進める。

特別活動

- コミュニケーション能力を育みよりよい人間関係を築かせるために、行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

総合的な学習の時間

- 探究課題を解決する中でさまざまな見方があることを理解し、自己の考えをまとめ、表現ができるようにする。
- 職場体験学習やキャリア学習に主体的・協働的に取り組む中で、より広い視野をもち積極的に社会に参画する態度を養うとともに、自己の生き方について考えられるようにする。

個別支援学級

- 体力向上を目指し、日々の運動を通して体力づくりに取り組む。
- 個別の指導支援計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図る。
- 自立活動を通し、基本的な生活習慣や社会的な生活力の向上を図る。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。